

平成26年4月17日(木)
愛知県 在宅医療連携拠点推進事業 中間活動報告
愛知県庁 自治研修所7階 大教室

あんしんの美しい花は 咲くか？

— ハナミズキプロジェクト始動！ —

名古屋市昭和区医師会

事務局担当
医療法人生寿会 かわな病院

地域概要

○名古屋市 昭和区医師会 【名古屋市昭和区】（H26年2月）

人口	105,280人
高齢化率(市内16区中 9位)	22.47%
人口増減率（数）	0.34%(+354人)

○地域特性(H25年10月)

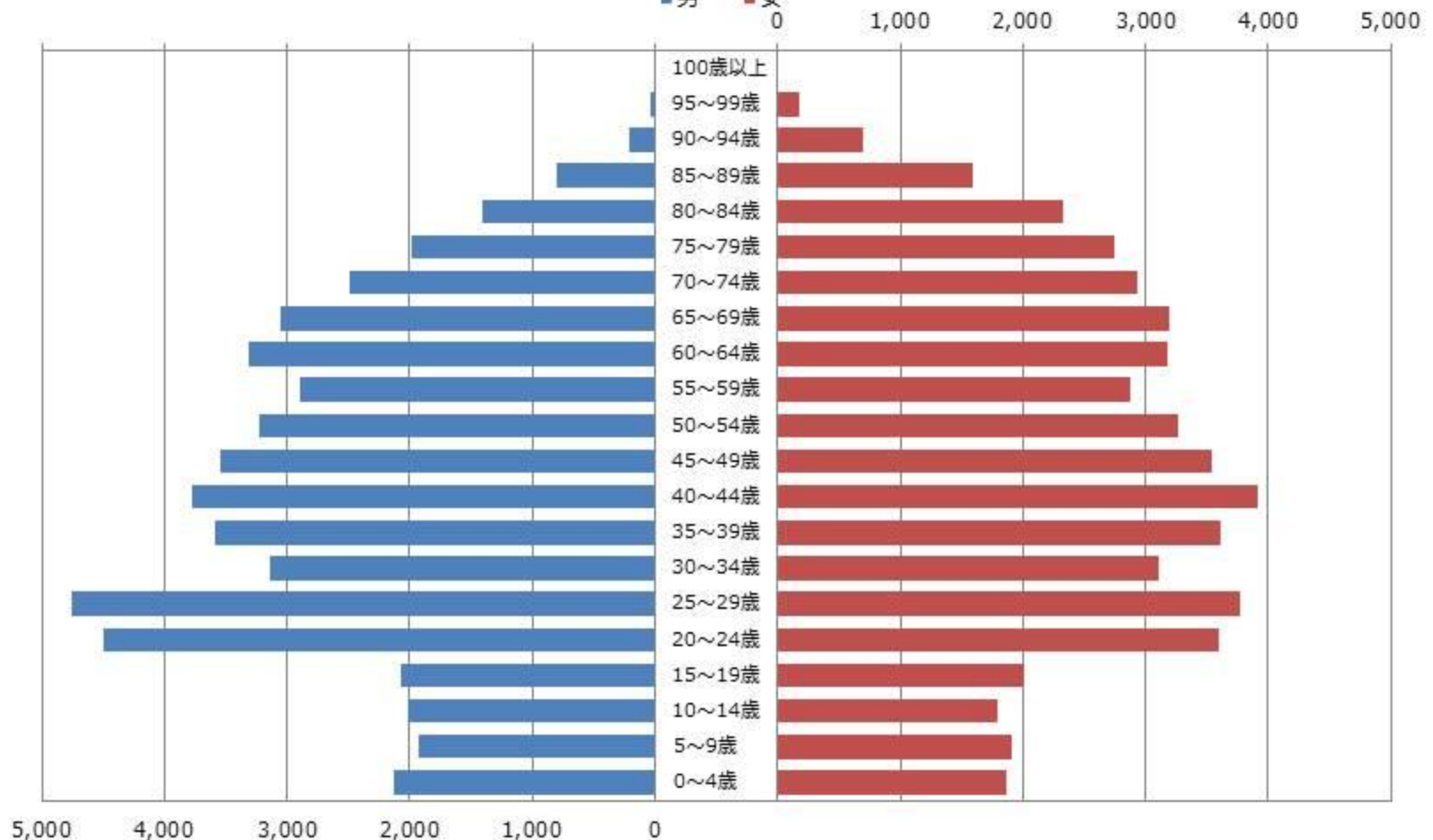
- ・ 一世帯あたりの人員数：1.96人(市内少ない方から4番目)
- ・ 一人世帯割合：51.3%
- ・ 独居高齢者数：5,294名
- ・ 65歳以上の20.1%が、要支援・要介護認定を受けている。
(4,906名：市内1位)

地域の人口ピラミッド

名古屋市昭和区

男女別推計人口（平成26年2月）

■男 ■女



地域の医療・介護資源マップ

在宅療養支援診療所・病院
18施設

訪問看護ステーション
13施設



昭和区における【課題】

【課題 1】 多職種連携を促進・継続させるためのしくみの検討

⇒ 指定事業 対象タスク①②③

【課題 2】 在宅医療の24時間365日体制構築の検討

⇒ 指定事業 対象タスク②④

【課題 3】在宅医療を担う人材育成のしくみづくりの検討

⇒ 指定事業 対象タスク③

【課題 4】介護者負担軽減のためのレスパイトサービス提供の検討

⇒ 指定事業 対象タスク④

【課題 5】地域住民への在宅医療の普及・啓発活動促進の検討

⇒ 指定事業 対象タスク⑤

【解決策 1】

医療・福祉・行政におよぶ **多職種連携**

1. 専門職団体代表者会議の設置

⇒昭和区内の多職種連携に関わる諸課題を検討・解決していく
意志決定機関として機能させる

2. 多職種連携会(ハミズキプロジェクト)の開催

⇒昭和区内の多職種間で課題を抽出しながら顔の見える関係の
構築をめざす

3. 情報共有方法の模索・ツールの活用

⇒ICTツールによる、多職種間情報共有を試験的に実施し、
その課題を抽出・フィードバックする

【解決策2】

在宅医療の24時間365日体制構築

1. 在宅医療に関するアンケート調査の実施

⇒医療機関、訪問看護ステーションに対し在宅医療に関するアンケートを実施し、課題を抽出する

2. 緊急時のバックアップ入院 対応体制の構築

⇒昭和区内の病床を有する医療機関で在宅療養支援のための連絡協議会を立ち上げ課題を抽出、解決策の検討をおこなう

3. 地域包括ケアにおいてかかりつけ医の在宅医療参加促進を図る

⇒昭和区内のかかりつけ医、在宅療養を支援する病院、訪問看護ステーション等による在宅医療連携システムの検討をおこなう

【解決策 3】

在宅医療を担う人材育成の体制構築

1. 在宅医療をテーマにした教育講演会の実施

2. 在宅医療に関心のあるスタッフを対象とした
同行訪問診療・同行訪問看護の実施

【解決策4】

介護者のための **レスパイトサービス提供**

1. サービス事業者情報・空き情報の情報公開システムの構築

2. レスパイトサービス提供事業所間で情報交換会の実施
介護者サポートについての検討・課題抽出

3. 介護者向けセミナー・サロンの開催

【解決策 5】

地域住民への普及・啓発活動

1. 在宅医療・介護者向けの講演会・セミナー の開催
2. 地域の在宅医療の現状、必要とされる学習・交流についての調査・分析の実施
3. 昭和区内の学校と連携し、学生向けの啓発プログラムを開催
4. 介護者家族向けサロンの実施

平成25年度の活動

1. 事業開始から、行政、社協、地域包括支援センター、医療・福祉に関わる関係各団体へ、事業の趣旨説明に直接赴き、協力依頼を行った
2. 区内医療機関の在宅医療の現状把握が必須であり、他の社会資源調査に先駆けて医師会員へのアンケートが実施できるよう準備をした
3. ICTツールを用いた多職種間情報共有を、少数の事業者から実験的にスタートすることにしたため、説明会の日程調整等がスムーズに進行した
4. 事業実施期間中の取り組みを外部へ発信することが重要であるため、ホームページの立ち上げに優先的に取り組んだ (<http://hanamizuki-it.net/>)

平成25年度の活動評価

> 達成できたこと

1. 専門職団体代表者会議を設置し、その第1回会議を招集・開催
2. 区内有床医療機関への訪問および事業説明
3. 区内医師会員に在宅医療に関するアンケート調査実施
4. ICTツールの端末利用説明会を実施
5. 在宅医療連携拠点推進事業のHP開設準備（4/1開設）

平成25年度の活動評価

＞ 達成できなかったこと

1. 多職種連携会(ハナミズキプロジェクト)の開催

⇒年度末で日程調整つかず、年度内開催をあきらめた

2. 関係機関への社会資源調査依頼

⇒調査項目・内容の精査が完了しなかった

3. 区内有床医療機関連絡協議会の開催

4. ショートステイ施設連絡会の開催

⇒各機関への訪問・協力要請が年度内に完了しなかった

平成26年度の取り組み

1. 多職種連携会の定期開催と企画の充実

⇒多くの参加者が協働して地域の医療介護システム作りに関わっているという意識を育て、地域を支える力をより強いものとする関係作りを目指す

2. ICTの活用による負担軽減の検証および課題抽出

⇒患者を取り巻く関係機関がICTを利用し、リアルタイムで情報共有できることにより負担軽減が図れるのか、より効率的に多職種が関わりあえるのか、検証する

3. 在宅医療に関する専門職種の育成

⇒在宅医療に関する知識を深め、共有することで、より幅の広いケアの実施や連携に活かす

平成26年度の取り組み

4. 区内病院間で在宅療養患者の後方支援対応を協議

介護者レスパイトサービス（SS）の空床情報共有システム構築

⇒地域の患者さん、利用者さんが安心して在宅療養を続けられるよう、病院、施設の地域での役割について検討する

5. 地域住民も対象とした講演会、シンポジウムの開催

地域の学生に向けた、在宅医療・介護に関する研修企画の実施

⇒在宅療養について、より身近なものとして捉えてもらえるような講演会、交流会を企画する

⇒若い世代が、在宅医療を知るきっかけになるような研修を、地域住民とともに企画する

6. 緩和ケアに関する取り組み

①「高齢者の栄養・水分補給をどう考えるか」

②「在宅緩和ケアの現状と課題」

⇒以上2点について講演会・シンポジウムを開催

【まとめ】地域の未来はどうなっているか…

多職種間で壁の無い関係ができ、連携もスムーズになり在宅での個別ケアの質・量ともに向上している

必要に応じた連携体制が構築され、在宅医療における従事者も増加、負担軽減につながっている

関わりあう職種でのカンファレンス等情報共有が日常的になされ、ITシステムもより身近なものになっている

地域の医療介護資源がまとまり、医療介護従事者や住民にとって、情報収集しやすい環境が整っている



医療介護が連携し

美しい花を咲かせましょう！

在宅医療介護に対する敷居が低くなり、地域住民にとって当たり前のものであると考えられ、地域での在宅療養が増える

第1回昭和区**多職種連携会**開催！

【通称：ハナミズキプロジェクト】

2014年4月26日（土） 14:00～17:00

昭和区役所 2F講堂※参加費無料

★基調講演

「地域包括ケアにおける在宅医療と多職種連携とは」

講師：国立長寿医療研究センター 在宅連携医療部長

三浦 久幸 先生

★事業概要説明

★多職種グループワーク

- ・昭和区が多職種連携に関する課題抽出

★顔の見える関係づくりのための「名刺交換会」

- ・会費制／会場は昭和区役所近隣にて設定



お問い合わせ窓口

名古屋市 **昭和区医師会** 受託

在宅医療連携拠点推進事業

事務局

医療法人生寿会かわな病院

窓口担当者	松田・守口・高野
電話番号	052-761-5043
メールアドレス	mazda@seijukai.or.jp
ホームページ	http://hanamizuki-it.net/
担当事務局所在地	〒466-0807 名古屋市昭和区山花町50番地

きょうの昭和区

塩付通沿線

